

第7回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 配管減肉分科会 議事録

1. 日 時:2014 年 7 月 25 日(金)13 時 30 分～17 時 30 分
2. 場 所:日本機械学会 第3・4会議室
3. 出席者:井手(東電)、川端(関電)、近藤(MHPS)、増田(東京 PT)、朝倉(東芝)、大鹿(中電)、
五代儀(火原協)、竹石(東北電力)、橋井(富士電機)
代理者:なし
欠席者:なし
オブザーバ:本多(電事連)、堀内(電事連)、東(富士電機)、今野(富士電機)、半澤(東北電力)、
舟瀬(関電)
事務局:原(記)

4. 配布資料

- 7-1 . 前回議事録案
- 7-2 . 配管減肉分科会委員名簿
- 7-3 . 第 680 回火力専門委員会議事録(案)
- 7-4 . 第 69 回規格委員会議事録(案)
- 7-5 . 火力専門委員会書面投票結果報告
- 7-6 ・減速速度データ報告資料
- 7-7 ・火力設備配管減肉管理技術規格(2009 年版)レビュー結果
 - 7-7-1 本文
 - 7-7-2 付属書 改訂履歴一覧
 - 7-7-3 付属書 1
 - 7-7-4 NDIS72427 ガイド波を用いたパルス反射法による配管の探傷試験方法通則
 - 7-7-5 非破壊検査手法試験員の資格に関する調査
 - 7-7-6 各種試験方法における試験員の要件等について
- 7-8 放射線透過式配管肉厚測定装置
- 7-9 ・火力発電設備に係る規格の国際適合化について

5. 議題

- (1) 前回議事録確認 [資料 7-1]
前回議事録(案)について確認を行ない、議事録案は承認された。
- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 7-2]
委員の新任・再任、退任はなし。
- (3) 報告事項
 - (3-1) 火力専門委員会報告 [資料 7-3]
第 68 回火力専門委員会の審議内容について、以下のとおり報告された。
 - ・ 前回議事録の確認 ……委員会資料取扱内規は、規格委員会幹事会にて課題・方向

性を整理する。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の推薦承認
- ・ 各分科会委員・役員の承認
- ・ 第 6 回配管減肉分科会報告 …… 審議履歴表を基に、レビュー票審議の状況、改訂原稿案の策定スケジュールの見通しについて報告。
- ・ 専門委員会運営内規改訂案について …… 規格運営委員会運営規約の改訂内容を取り込んだ改訂案が提案され、火力専門委員会として書面投票を行うことが審議・承認された。

(3-2) 規格委員会報告

[資料 7-4]

第 69 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の承認
- ・ 火力専門委員会報告 …… 火力専門委員会および各分科会の活動状況などが報告された。
- ・ 火力専門委員会関連の審議事項はなし。
- ・ 規格改定バックフィット要領の検討提案について、検討を行うことになった経緯、今後の進めかたについて説明があった。

(3-3) 書面投票結果報告

[資料 7-5]

- ・ 書面投票の対象となった専門委員会運営規約改訂案を紹介した。(①常時参加者に関する規定の追加、②挙手による議決の代替としての電子メール審議の明文化、③改訂案に対する軽微な技術的変更は、編集上の修正と同様、書面投票の代わりに挙手により議決ができること)
- ・ 火力専門委員会として、書面投票の結果可決になったこと、および 4 専門委員会の保留意見を参考に修正案が提示されることが報告された。

(4) 審議事項

(4-1) 配管減肉速度データ報告

- ① 電事連から、資料 7-6 に基づき配管減肉速度データについて報告があった。
 - ・ 今回のデータ(コンベ:43、コンバインド:38)分析から、あらためて H17 年集約データ(約 1 万)の妥当性、信頼性が確認できた。
 - ・ 高減肉事例については、既掲載の事例を超える事例がなかったことから、追加する事例はなかった。
- ② 今回の電事連からの報告を受けて、解説「1. 3 高減肉事例の追加収集」の記載内容を修正する。
- ③ 電事連から検討依頼があった高減肉事例のデータ提供に関する今後の運用については、電事連の意向を踏まえ分科会にて検討を行い、平成 22 年の配管減肉分科会活動方針同様、火力専門委員会に諮ることとした。

(4-2)放射線透過式配管肉厚測定装置について

富士電機から、資料7-8に基づき、放射線透過式配管肉厚測定装置について説明がなされた。本件については取込可否も考慮して、①技術面に関する意見照会、②規格取込に関する意見照会を行い各委員からのコメントがない場合には規格取込に関するメール審議を行うことが出席委員全員の賛成により承認された。その対応期間は井手主査より再度メールにて周知することとした。また添付資料の補正計算方法については同一条件にて実施すること、次回までに測定装置にて測定出来る条件・範囲を整理・明確化する必要があることを説明した。

(4-3)火力設備配管減肉管理技術規格(2009年版)のレビュー

■ 附属書

- 非破壊検査の各試験法における資格要件について確認した。ひずみ測定は継続審議とし、その他の試験法については現行規格の記載を継承する(資料7-7-5)。
- ガイド波反射試験法に関して、6.2(1)試験方法のところに、NDIS 2427-2010 に関する記載を追加する(資料7-7-3)。これは、NDIS2427「解説 4. 適用範囲」にて、ガイド波を用いた配管の試験方法でこれまでも有効な方法として JSME S TB1-2009 の附属書にガイド波反射検査法が記載されているため。(資料7-7-4)。

<次回分科会までの実施事項>

- 本日詳細審議出来なかった附属書改訂箇所についての確認をする。
- 規格改訂クロスチェックを実施する。(8/1～10/24)
クロスチェックは今までの審議履歴表及び改訂一覧を用いて確認する。
赤字見え消し版及び改訂履歴表を「CSキャビネットー配管減肉分科会ーチェック用ーチェック前」フォルダに(近藤委員、川端委員、井手委員)8月1日までに格納。
チェックにより修正が必要な場合は青字見え消しにて修正し、修正後チェック済みフォルダに格納。

【担当箇所】(下線・太字は取り纏め)

- ・本文：近藤委員、増田委員
- ・附属書：朝倉委員、五代儀委員、大鹿委員、井手
- ・添付資料、解説：川端委員、竹石委員、橋井委員

6. その他

産構審保安分科会電力安全小委員会での関連情報の紹介 [資料7-9]

今後の方向性として、「JSME規格基本規定(2012年版)を、火技解釈に取り入れる」との報告があり、12月には火技解釈の安全率の変更およびJSME規格の採り入れについて、中間報告予定。

7. 次回開催予定

日 時:2014年11月7日(金)13時30分～17時00分

場 所:日本機械学会 第3・4会議室